

郷土研究

岐阜

第145号

パレオパラドキシア

全身骨格化石の発見と展示

安藤 佑介

令和四年六月、瑞浪市釜戸町を流れる土岐川の河床で海生哺乳類パレオパラドキシアのまとまった骨格化石が発見された。この生物は、束柱類という絶滅したグループに属し、のり巻きを数本束ねたような歯を持つことが特徴である。ユニークな歯を持つこと、現在その仲間を含めた子孫が生息していないことを含め、生態の大部分が不明であり、「謎の奇獣」とも呼ばれてきた。

発見された骨格は、上あごと下あごがかみ合い、背骨が頭から腰までつながり、肋骨が生きていた時の状態で並んでいるなど、稀に見る保存状態の良いものであった。パレオパラドキシアとその仲間の化石は、日本各地や北米太平洋岸に分布する二二〇〇万年〜一二〇〇万年前の地層から見つかっているが、頭骨を残すまとまった骨格化石は今回の発見を含めて世界で七例しかない。

発見からわずか五日後には発掘が行われた。そして、この貴重な化石を調

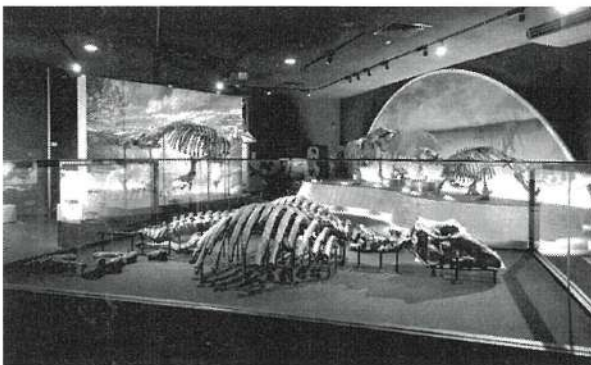
査・活用するためのプロジェクトを立ち上げ、クラウドファンディングも実施。発見された地元の方々をはじめ、全国各地の大勢の皆様にご支援をいただいた。発掘後約二年かかった剖出(クリーニング)作業では、誰もが早く全体像を見たい思いで熱心に行い、私自身も何か使命感をもって作業に当たった記憶がある。作業と並行して、様々な分野の研究者が調査・研究を行った結果、主に次のことが明らかになった。

- ①全身の約六割の骨が残されている。
- ②パレオパラドキシア科に所属する。
- ③約一六五〇万年前に生息していた。
- ④老齢な個体である。
- ⑤死後サメに死肉が摂食された。
- ⑥埋積した場所は暖かく浅い海。

研究は、また途中段階だが、令和六年三月には初報として調査報告書を刊行、瑞浪市化石博物館のウェブサイトで公開中である。今後、この骨格をより詳細に研究することにより、「謎」とされていた生活史や姿などが解明されることが期待される。

令和六年には復元骨格や復元画を制作し、実物化石とあわせて展示するために博物館の常設展示室を改装。令和七年三月には、パレオパラドキシアの特設コーナーを新設した展示室を公開した。実物の骨格は、収蔵も兼ねて展示する方式をとり、鉄製の支持具を用いて立体的に組み上げた骨格を長辺三メートルもの展示ケースに収納して展示している。また、発掘、剖出、展示リニューアルの様子はYOUTUBEでご覧いただける。リニューアルにより、瑞浪市化石博物館には、これまで以上に「化石のまち みずなみ」を発信する拠点としての機能が期待される。

(瑞浪市化石博物館学芸員)



リニューアルされた瑞浪市化石博物館の展示室

目 次

パレオパラドキシア全身骨格化石の 発見と展示	安藤佑介	1
大垣藩主側室の御土戸 清水 進		2
「美江寺合点戦」に関する一考察(下)	宮野宣康	6
『細雪』『蛭狩』の舞台		
「表佐の業平川」ルートを歩く		
明治期の東本願寺再建と了誓寺の門徒	松原義範	10
	野村泰之	16
地区情報		
(岐阜)内堀 信雄 (可茂)栗谷本 真		22
(東濃)砂田 晋司		23
郷土関係新刊書目録		23
郷土関係逐次刊行物文献目録		26

郷土研究・岐阜 第一四五号
 令和8年3月23日 発行
 編集・発行 岐阜県郷土資料研究協議会
 (会長 黒田隆志)
 岐阜市宇佐四―一―一 県図書館内
 電 話 〇五八―二七五―五二一一
 FAX 〇五八―二七五―五二一五
 E-mail kyoshike@library.pref.gifu.jp
 銀行振込 大垣共立銀行県庁前支店
 (普) 289660
 郵便振替 00860-0-41220
 普通会員 2800円
 賛助会員 4000円
 (印刷 浅野印刷株式会社)